

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2019年11月20日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(2日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	氷見市	代表者名	市長 林 正之
担当者部署	産業振興部	連絡先電話番号	0766-74-8106
担当者役職		担当者氏名	
住所	935-8686 富山県氷見市鞍川1060番地		

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	細川 哲星
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	滞在型観光推進を目指す本市の課題および将来ビジョン、ならびに山間部での体験プログラム造成の必要性など様々な部分で市職員とアドバイザーが考えを共有することができ、非常に良かった。制度活用2日目は地域資源の掘り起こしを目的に、漁港、道の駅などの施設や、棚田をはじめとした歴史的な景観を見ていただいた。海側は民宿など観光客を受け入れる土壌が整っている一方、山側はまだまだ改善の余地があることなどについて改めて気づくことができた。また、棚田のある氷見市長坂地区では「もう少しPRを工夫すれば誘客が見込める」などのアドバイスをいただき、大変参考になった。
アドバイザーへの要望事項	氷見市の山側での体験プログラムの提案、および他市町村の体験プログラム現状について助言をいただきたい。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2019年11月13日	13時00分	16時00分	30	150
3-2. 派遣場所	会場名	氷見市役所、市内観光施設等		最寄駅	JR氷見駅
	所在地	氷見市鞍川1060番地 ほか			
	最寄駅からの交通手段	市役所職員による送迎等			

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	氷見市役所職員	2人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	本市を訪れる観光客の市内での平均滞在時間は3時間程度と短い状況にある。滞在時間は観光客消費額と直結するため、地域経済効果が十分発揮されるよう、滞在時間を延ばす仕組みづくりとして体験プログラムのPRと造成が必要である。本市における体験プログラムは、氷見沖クルージングや細工かまぼこ絵付け体験など修学旅行者向けが多く、天候に左右されるものが多いことが課題である。そのため、通年で実施できる体験プログラムの造成に取り組む必要があると考えている。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	本市における「オーセンティックな農山漁村文化の価値」を再構築するとともに、広域観光・インバウンドにつながる新たな体験プログラムを造成する。また、既存の体験プログラムのPR方法改善による応募者数の増加を目指す。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	体験プログラムの全国的なトレンド紹介および、本市における体験プログラム造成に向けた企画開発、プロモーションに関するアドバイス	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	棚田など歴史的な景観を活用した体験プログラムの造成に向けて、取り組む余地があることを再認識することができた。海側の温泉施設と山側の歴史的な景観を組み合わせたようなプログラムについて一度、検討してみる価値があると感じた。さらに、現在の市内にある体験プログラムの価格が安価であることを受け、「富裕層向けに5000円から1万円程度のものを造成しても良いのではないか」とのアドバイスも参考になった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 制度活用3日目に公開勉強会を開催し、体験プログラムの造成に向けた地域住民等の啓発につなげた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	氷見市の山側での体験プログラム造成につながる具体的なアドバイス	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 制度活用2日目は地域資源の掘り起こしを目的とした現地視察を行ったため、アンケートは実施していない。制度活用3日目に予定している公開勉強会ではアンケートを実施する予定。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	次年度中に、農山漁村エリアにおける滞在型観光の拠点となる施設(古民家等)やフィールドでの体験プログラムづくりを行う。最終的には収益性を確保できるものとし、地域の稼ぐ力の育成等につなげる。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

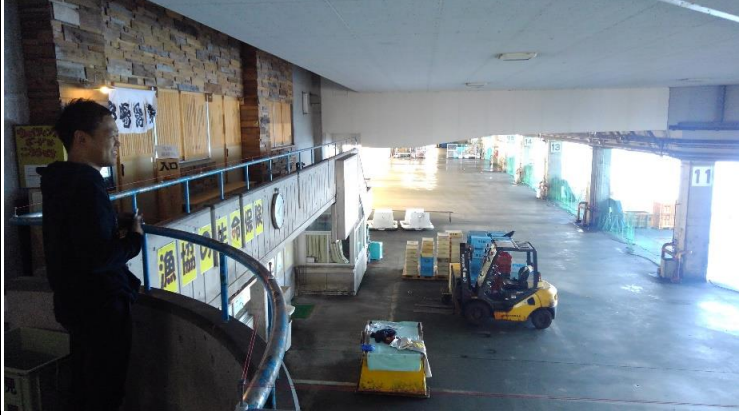
氷見市内視察①



氷見市内視察②



氷見漁港視察



氷見市潮風ギャラリー（藤子不二雄[Ⓐ]アートコレクション）視察



萩原氷見市商工観光課長（右）に視察の感想を報告



※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2019年11月21日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(3日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	氷見市	代表者名	市長 林 正之
担当者部署	産業振興部	連絡先電話番号	0766-74-8106
担当者役職	課長	担当者氏名	萩原 宣雄
住所	935-8686 富山県氷見市鞍川1060番地		

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	細川 哲星
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	制度活用3日目は、細川氏による「公開勉強会」を開催した。氷見市にふさわしい体験プログラムとして、家族連れを対象にした「体験と宿をセットしたプログラムが良いのではないか」という具体的なお助言をいただき、大変参考になった。例として、「焼酎飲み比べができる宿」「釣りができる宿」「ナイトサファリができる宿」など、他県で展開されているプログラムもご紹介いただき、本市で実施した場合の運営形態についてもイメージしやすかった。いただいたお助言はいずれも、本市の観光事業における現状や課題を踏まえたものであり、本市の課題解決のために真摯に取り組んでいただけたことに改めて感謝したい。
アドバイザーへの要望事項	今後も機会があれば、氷見市での体験プログラムの造成に向けてお助言をいただきたい。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2019年11月14日	14時00分	16時30分		150
3-2. 派遣場所	会場名	氷見市役所201災害対策室		最寄駅	JR氷見駅
	所在地	氷見市鞍川1060番地 ほか			
	最寄駅からの交通手段	市役所職員による送迎			

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="checkbox"/> 掲載可
------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	氷見市職員、氷見市内の観光事業者	8人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	本市を訪れる観光客の市内での平均滞在時間は3時間程度と短い状況にある。滞在時間は観光客消費額と直結するため、地域経済効果が十分発揮されるよう、滞在時間を延ばす仕組みづくりとして体験プログラムのPRと造成が必要である。本市における体験プログラムは、氷見沖クルージングや細工かまぼこ絵付け体験など修学旅行者向けが多く、天候に左右されるものが多いことが課題である。そのため、通年で実施できる体験プログラムの造成に取り組む必要があると考えている。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	本市における「オーセンティックな農山漁村文化の価値」を再構築するとともに、広域観光・インバウンドにつながる新たな体験プログラムを造成する。また、既存の体験プログラムのPR方法改善による応募者数の増加を目指す。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	体験プログラムの全国的なトレンド紹介および、本市における体験プログラム造成に向けた企画開発、プロモーションに関するアドバイス	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	本市における体験プログラム造成に向け(1)ターゲットの明確化(2)既存の体験プログラムのタイトル変更(3)体験と宿をセットにしたプログラムの造成(4)お昼以外の「朝」と「夜」の体験プログラムの造成の4点について具体的なお助言をいただいた。市内の観光事業者にとって、非常に刺激になる内容であり、既存の体験プログラムのブラッシュアップにつながると思う。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 細川氏による公開勉強会は、体験プログラム造成に向けた地域住民等の啓発につながったと思う。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	今後の体験プログラム造成に向け、参考になるアドバイスを多くいただいた。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 添付資料のとおり	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	次年度中に、農山漁村エリアにおける滞在型観光の拠点となる施設(古民家等)やフィールドでの体験プログラムづくりを行う。最終的には収益性を確保できるものとし、地域の稼ぐ力の育成等につなげる。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

細川氏による講演風景

